

2020年度 委員会活動報告

本年度は、コロナ禍により委員会活動報告会を中止しました。
本文書は、活動報告会での報告に替わり、会員企業の皆様に
各委員会活動を報告するもので、2021年2月時点の活動内容です。

報告委員会：

中期計画戦略委員会

国際展開委員会

SIAA マーク表示推進委員会

技術・制度運営委員会

安全性委員会

防カビ委員会

抗ウイルス委員会

バイオフィルム委員会

抗アレル物質準備委員会

一般社団法人 抗菌製品技術協議会

2020年度 中期計画戦略委員会 活動報告

委員長 高木 公博

1. 要旨

SIAA は、抗菌、防カビ、抗ウイルス、抗バイオフィルム、抗アレル物質と継続的に機能の拡大を進めており、また、中核となる「抗菌」については来年度から「定期的性能チェック制度」を導入し、「SIAA マークの信頼性及び認知度の更なる向上」を目指している。

本年度は、新中計に掲げている新たな抗菌カテゴリーの検討を、将来像も見据えながら、プロジェクト方式にて注力して活動した。

2. 本年度の活動内容

1) 将来テーマ検討

(1) 新たな抗菌カテゴリーの検討

・新型コロナ感染拡大に伴い公衆衛生への関心が高まり、抗菌・抗ウイルス関連の新規入会が急増している状況を鑑み、SIAA として取り組むべきカテゴリーを議論し、理事会へ提言する予定。

2) 「定期的性能チェック制度導入」の進捗見届け

・2021年4月導入予定の「定期的性能チェック制度」については、当初、3回の説明会を計画していたが、コロナ禍のため回数を減らし、11月の管理責任者講習会にて実施し、会員の理解を深めた。

・また、無加工品の選定方法、不合格時の対応等運用ガイドラインを整備し、予定通り、2021年4月からの運用を開始する。

3) 委員会活動の効率化

・制度運営委員会と評価技術委員会が統合し技術制度委員会として活動開始。また、各委員会のミッションの明確化を推進。今後、運営体制（分科会、正副委員長制等）を検討する。

3. 次年度の活動内容案

1) SIAA 会員数 1,000 社時の活動について

・本年4月以降、抗菌・抗ウイルス関連での新規入会が急増しており、会員数 1,000 社も現実的となっている。来年度は、会員数 1,000 社時の有効な委員会活動等について検討し幹事会への提言を纏める。

以上

2020年度 国際展開委員会 活動報告 ～波瀾万丈の1年間でした～

委員長代行 庄田 正博

1. 要旨

・本年度は、委員長の逝去、コロナ影響による出張・会議中止・展示会延期により中国、韓国、台湾と交流できなかったため国内でWFAI抗菌組織の設立、運用に注力し活動した。その結果、WFAIの登記（7/1日本）を完了しWFAIを設立することができた。運用に必要な各種規定類の提案、抗菌性試験基準統一・バラツキ低減のための手合せ試験及び抗菌市場国際的拡大目的の計画していた見本市出展は来期に持ち越しとなった。

2. 本年度の活動内容

1) WFAI 抗菌組織の設立、運用

- ・定款の調整が完了し登記完了（7/1）
- ・KIAAと商標使用許諾契約完了（10/15）CIAAは独自マーク使用

2) 抗菌市場の国際的拡大

- ・2020年3/11～3/14 上海国際家電展出展→2021年3/11～3/14 規模を縮小し出展予定。
- ・2020年9/9～9/13 台北 Plas 出展予定→延期/2021年5月予定
- ・2020年韓国国際プラ展への出展検討→検討延期
- ・2020年日中韓以外の第4国での講演会検討→延期
- ・海外向け広報の検討→海外向けパンフレット（日・英・中版）の改訂検討及び動画コンテンツの作成を実施中。

3) 海外展開事業支援制度の活用

- ・新興市場開拓事業（制度・事業環境整備）に採択される。
- ・東南アジアへの専門家派遣は延期、受け入れ研修をWeb会議方式で実施予定。（2021.3月予定）

3. 今後の予定

1) WFAI 抗菌組織の設立、運用

- ・運用に必要な規定類（28項目）案の翻訳を実施中。CIAA・KIAAに提案準備中。
- ・評価技術制度委員会の協力を得、ラウンドロビン試験を計画中。
- ・CIAA、KIAAとWFAI運用についての具体的な目標、スケジュール調整を実施。
- ・第4の団体（TIAA）加入についてCIAAに打診予定。

2) 抗菌市場の国際的拡大

- ・コロナ影響を確認後、2021年下期に海外展示会、講演会などの出展・出席を予定。

3) 海外展開事業支援制度の活用

- ・新興市場開拓事業（制度・事業環境整備）に引き続き挑戦予定。

以上

2020年度 SIAA マーク表示推進委員会 活動報告

～そして2021へ…～

委員長 樋口 真弓

1. 要旨

本年度は世の中の情勢により当初の予定と大幅に変更せざるえない部分多く、都度、柔軟に対応した。例年出展していた国際福祉機器展の開催が中止になったが、従来の大江戸線での車内広告に加え、近鉄電車全車両広告や雑誌広告、SNS による一般への普及・広報を行った。また、新パンフレットも完成し、抗菌性調査の第1回の試験が終了した。

2. 本年度の活動内容

1) 普及

近鉄の中吊り広告	認知促進用グッズ作成	
 <p>近鉄の全車両で2週間の掲載を実施。</p>	 <p><一般の方へ認知促進用></p>	<p>展示会開催時の認知促進グッズとして使用の予定だが開催までは SNS のキャンペーンで使用予定。 すべて SIAA 登録製品。 抗菌マスクケース、抗菌おりがみ、抗ウイルス・抗菌ステッカー (抗菌カードは作成中)</p>

その他、複数の会員企業の方々が CM や各種メディア取材で自社製品に加え、SIAA マークを PR して頂いています。

2) 広報

新パンフレット完成	SIAA ホームページ
	
<p>新規入会希望社などに配布開始。</p>	<p>スマートフォン対応に。</p>

3) 調査

<p>・抗菌性の調査 2020年のテーマ 「キッチン用品 (水切り、洗い桶)」 「SIAA 登録抗菌印刷物」 →第1回試験終了。 第2回試験準備中(会員分)。 例年の会員製品の抗菌力確認に加え、今年度は印刷会社様のご入会が多いため、実際の印刷製品の抗菌力の確認も合わせて実施。</p>
--

3. 今後の予定

抗菌性調査：非会員企業には SIAA 入会を視野に入れた結果報告、第2回試験(会員分)の実施。
普及・広報：随時臨機応変に対応して正しい抗菌市場の育成を目指す。

以上

2020 年度 技術・制度運営委員会 活動報告

委員長 太田 知克

1. 要旨

本年度、新型コロナウイルス影響により、本委員会開催は当初計画の 3 回から 2 回とした。次年度開始予定の定期的性能チェックに関する協議、抗バイオフィルム試験法の ISO 化、各種講習会の企画・開催が主な活動であった。

2. 本年度の活動内容

1) 定期的チェック制度に関する検討

昨年度、制度で用いる共通の無加工試験片として検討した候補サンプルの結果を基に、試験機関による打合せ及び検討試験を実施し、最終的にガラス板を用いることで決定した。併せて試験機関向けの手順書を作成中である。

2) 国際標準化活動

抗バイオフィルム試験法の ISO 新規提案として、5 月に NP 提案を行い、10 月開催(Web)の ISO/TC61/SC6/WG7 にてプレゼンテーションを実施した。現在、CD 投票にかけられ賛成 12(コメント付 1)、反対 0、棄権 7 で次の段階へ進むこととなった(2021/02/02 〆切)。

3) 管理責任者講習会及びフォローアップ研修の企画・開催

参加者：214 名

管理責任者講習会のみを開催した(フォローアップ研修会は中止)。また、例年東京地区でのみ開催していたが、東京地区(11/30 午前、午後)、大阪地区(11/13 午後)の計 3 回開催し、新規会員の急増に対応した。また、急遽オンラインでの開催も行った。

4) 試験管理士講習フォローアップ研修会の企画・開催

本年度は新型コロナウイルスの影響により、中止した。

5) SIAA マーク定期性能チェック制度の規定及び運用マニュアルの作成及び周知活動

本制度の内容を運用マニュアル(M24)として作成し、5 月の理事会にて承認を得た。管理責任者講習会では運用マニュアル(M24)の説明を中心に、制度の導入に至った経緯やこれまで寄せられた Q&A 等を加えて説明した。

6) 規定類の英訳作業

英訳が必要な規定について確認作業を実施し、外注先に発注した。英訳作業完了後、順次ウェブサイトにて公開予定である。

7) 会議開催

- ・国際標準化分科会 (Web) 6/5, 8/19, 9/30
- ・定期的性能チェック制度に関する試験機関ミーティング(Web) 9/3
- ・ISO TC61/SC6/WG7 (Web) 10/8
- ・第 1 回技術・制度委員会開催(Web) 12/10

3. 今後の予定

3/9 に第 2 回技術・制度委員会開催(Web) , 3 月中旬に国際標準化分科会をそれぞれ開催予定。

以上

2020年度 安全性委員会 活動報告

委員長 勝田真一

1. 要旨

本年度は、コロナ禍対応による自粛が相次ぎ、オンサイトでの情報収集が困難であったが、海外及び国内の規制状況の変化について、情報を収集して共有した。また、様々なタイプの抗菌・抗ウイルス製品が開発され、社会的に SIAA への期待も高まったことから、SIAA への正しく理解のため、そして、新しいタイプの製品の評価のため、現行の規定等の見直しについて活発に議論し、一部の規定を改定した。

2. 本年度の活動内容

1) 海外法規制への対応

- ・ BPR に関する情報収集と共有したが、大きな進展はなかった。
- ・ ユーラシア REACH 及びロシア REACH、トルコ REACH 等の情報収集
- ・ 韓国における K-BPR 登録の現状を確認した。
- ・ その他委員からの情報を都度アップデートし、共有した。

2) 国内法規制への対応

- ・ 食品用器具・容器包装のポジティブリスト(PL)制度導入に伴う SIAA 会員の登録状況を確認した。大きな問題がないことが明らかとなった。

3) 品質と安全性に関する規定等の見直し

- ・ K07「品質と安全性に関する自主規格」における、毒物等の除外記載事項案を最終化した(12月理事会にて決議)。
- ・ 抗菌剤及び抗ウイルス加工剤の安全性試験方法の見直しについて検討を開始した。
- ・ スプレー製品について、SIAA の趣旨とは必ずしも一致しておらず、安全性確認についても一部不備があるとの見解から、登録に必要な安全性基準の見直しについて、まず、今後 B to C 対象のスプレー製品については、SIAA 登録は見送るべきと決議した。そして、既存製品の取り扱い等については継続審議することとした。
- ・ その他、新しいタイプの材料に関する安全性の考え方の整理を開始した。

3. 今後の予定

- ・ 規定等の見直しについて、重点課題として受け止め、なるべく早期に改定案を最終化する。

以上

2020年度 防カビ委員会 活動報告

委員長 古川 誠

1. 要旨

本年度はコロナウイルス感染拡大の影響により、展示会を通じた活動は未実施でした。SIAA 新パンフレット制作に注力し、来年度以降パンフレットを通じた広報ができる内容としました。

SIAA 防カビマーク認知度アップのため、インターネット検索時に SIAA の HP が上位にくるよう、SEO 対策を実施します。HP にも防カビのコラムページを作成して認知度アップを目指していきます。

2. 本年度の活動内容

1) 防カビ PL 審査会実施（2020年7月7日）

防カビ剤登録 2社、14剤増加（現在、16社、60剤登録）

防カビ加工製品登録社数 8社、23製品増加（現在、23社、53製品登録）

2) 防カビ委員会開催（2020年12月8日）

防カビ登録アップに繋がる方策について、委員会で議論。

SEO 対策用のキーワードを検討。

3) 広報活動

SIAA 新パンフレット制作に注力

SEO 対策を実施

4) SIAA 規定の改定

K26 防カビ剤のポジティブリスト収載判定規定を改定。

PL 審査会委員の任期を追記。

3. 今後の予定

広報活動の一環として、SIAA 新動画制作にも注力していきます。

また、SEO 対策の評価を行い、認知度アップすることで防カビ登録の拡大を目指します。

以上

2020年度 抗ウイルス委員会 活動報告

～SIAA 抗ウイルスマーク運用と販促活動～

委員長 射本 康夫

1. 要旨

本年度は、SIAA 抗ウイルスマークの周知のため、リーフレット作成並びにホームページへの情報の追加に注力して活動した。また、無加工試料における感染価の減少に対する運用方法の検討を行った。SIAA 抗ウイルスマークの周知については、コロナ渦での需要にも合致し、抗ウイルスマークの申請数が増加し、一定の成果が得られた。

2. 本年度の活動内容

1) 無加工試料に関する検証試験の実施

無加工試料におけるウイルス感染価の減少（試験不成立）に対する運用方法の検討を行った。試験片の加熱処理及び試験ウイルス懸濁液へのタンパク質添加において、一定の効果が確認されたため、運用マニュアル規定に無加工試料における試験不成立時の対応について、以下の対応の例示を含め追加した。

例示 1) 試験片を 60℃の乾燥機で 24 時間放置する。

例示 2) 試験ウイルス懸濁液中に終濃度 0.3%となるように BSA を添加する。

2) SIAA 抗ウイルス_リーフレット及び HP の作成

SIAA 抗ウイルスマークの PR と抗ウイルス加工の適切な表示に関する情報発信を行うために、「抗ウイルス_リーフレット」を作成した。また、SIAA ホームページに「抗ウイルスとは」のページを作成し、SIAA 抗ウイルスマーク並びに抗ウイルス加工についての情報を追加した。

3. 今後の予定

無加工試料の減少についての事例を集め、対応方法についての検証及び改善を行う。また、ISO21702 が適用外の検体に対する SIAA 法（シェーク法など）の検討について議論する。引き続き、抗ウイルスの適切な表現を含めた SIAA 抗ウイルスマークの周知活動を行う。

以上

2020年度 バイオフィルム委員会 活動報告

～ISO化を目指した試験方法の開発と抗バイオフィルム認証制度構築に向けて～

委員長 中津川 直樹

1. 要旨

1) ISO化を目指した試験方法の開発

①静置系：5月にISO/TC61/SC6/WG7へのNP(新作業項目)提案、併せてWD(作業原案)も提出し、投票の結果、賛成12ヶ国、反対0となり、積極的参加5ヶ国も確保でき、新規プロジェクトとして登録された。10月の国際会議(Web)では、WG Consultationを行いCD段階に進むことが承認された。WG Consultationの結果、賛成16、反対0、WDに対するコメント無しとなり、2021年1月現在、30.20(CD投票)であり2020年度中にCD登録完了予定で順調、目標を上回る進捗となった。

②流水系：検討試験分科会でベースとなるモデル実験系の検討を開始。

2) 抗バイオフィルム認証制度の構築に向けての検討

ISO化を目指す静置系での試験法や、検討開始の流水系での試験法に加え、抗バイオフィルム認証制度構築に向けて、基材の違いの評価法も考慮した試験法についても検討開始。

2. 本年度の活動内容

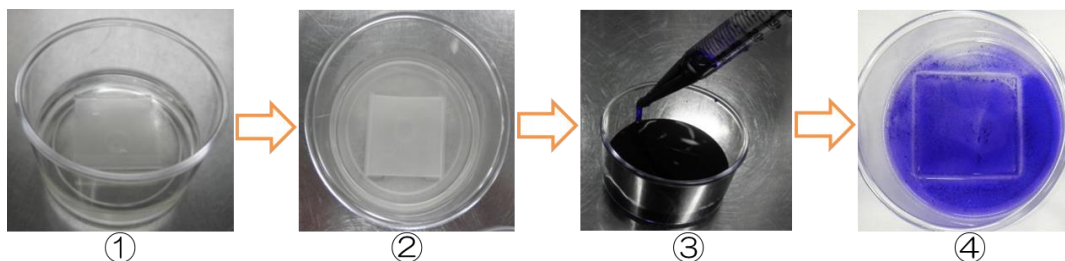
1) 活動体制

2021年2月現在、試験機関、剤/加工製品メーカーから31名の委員、アドバイザー2名(共同研究実施中の鈴鹿高専・兼松先生、人間総合科学大学・生貝先生)、事務局2名の計35名で活動中。経産省国際標準化事業(プラスチック製品の抗バイオフィルム評価試験方法)に採択され、国際標準化を目指し2020年度から3ヶ月年の開発計画でFDIS(最終国際規格案)登録を目標とし活動中。評価技術委員会国際標準化分科会とも連携中。

2) 開発中の静置系での試験方法の概要

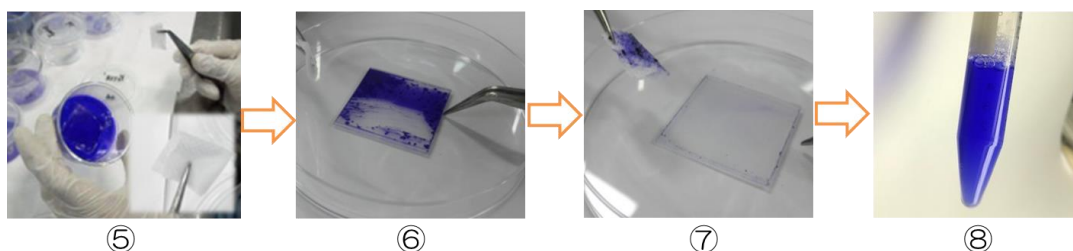
・試験菌：*Staphylococcus epidermidis* ATCC 35984、培地：1/5TSB(BBL又はBacto)、培養時間：48時間

【試験片へのバイオフィルム形成及びクリスタルバイオレットによる染色】



①試験片(3×3 cm)を試験菌液(1/5TSB)の入った容器に設置→②35℃で48時間培養→③精製水で洗浄後、0.1%クリスタルバイオレット水溶液で染色→④クリスタルバイオレット水溶液を取除き、再度精製水で洗浄

【バイオフィルムの定量】



⑤～⑧: 水溶性不織布を用いて試験面を拭き取り、1%SDS 水溶液に溶解した。完全に溶解させた後、吸光度(波長 570nm)を測定。

【評価】

無加工試験片の吸光度と加工試験片の吸光度から、次式により抗バイオフィルム活性値(%)を求め、評価。

$$R = (1 - W_{\text{treated}} / W_{\text{untreated}}) \times 100$$

R : 抗バイオフィルム活性値、

W_{treated} : 48 時間後の加工試験片の 570nm での吸光度の平均値、

$W_{\text{untreated}}$: 48 時間後の無加工試験片の 570nm での吸光度の平均値

3. 今後の予定

1) ISO 化を目指した試験法の開発

①静置系: ISO/TC61/SC6/WG7 での活動を継続、2023 年度中の最終版受理または FDIS 登録を目指す。

②流水系: 層流/乱流や流速等のパラメーターも考慮の上、基本条件の構築を急ぐ予定。

2) 抗バイオフィルム認証制度の構築に向けての検討

静置系/流水系の試験法に加え基材の違いの評価法も考慮した試験法、浮遊 EPS に対する水中徐放タイプの試験法等も検討、これらと併せ消費者や SIAA 会員のニーズに応える試験法についても、メンバー拡大した検討試験分科会等で十分に検討の上、2024 年度(目標)からの抗バイオフィルム認証制度構築に向けた基礎とする予定。

以上

2020年度 抗アレル準備委員会 活動報告

委員長 江口 英範

1. 要旨

本年度は抗アレル物質試験法の国際標準化に向けた調査・検討と抗アレル物質試験法自体の検討に関して活動した。

その結果、抗アレル物質試験方法の国際標準化は必要であると判断したが、諸問題により今年度の経済産業省への国際標準化事業への予算申請は見送り、来年度以降再検証することとなった。

2. 本年度の活動内容

1) 国際標準化に向けた調査と検討：市場調査

本年度、当準備委員会としては市場性を明確にできる情報は得られなかったが、抗アレル物質への要望は非常に高いと考えている。

2) 国際標準化に向けた調査と検討：国際標準化（ISO化）の要否判断

本年度、準備委員会として抗アレル物質試験の標準化は必要と判断した。しかし、時期に関しては、少なくとも本年度ではないと判断した。

その理由としては抗菌試験や抗ウイルス試験と同様のフィルム密着法を抗アレル物質試験法として国際標準化する場合、日本国内では障害となる登録特許が存在し、その方法を使用する場合にはライセンス料が必要であることが挙げられた。その他には、抗アレル物質試験法として最適な試験方法が確立されていないことが挙げられた。

3) 抗アレル物質試験法に関する調査と検討：国内外の試験方法に関する調査及び検討

本年度、抗アレル物質試験法としては登録特許となっている試験方法のほかに当準備委員内でも独自の試験方法で実施していることから各試験方法の条件を検証し、最適な試験方法の検証を行う必要があると判断した。その検証のために複数ある試験方法から4つに試験方法に絞り込みを行った。絞り込んだ4つの試験方法の手合わせ試験を行うため、試験試料の調達・準備、詳細な試験計画を策定中。

3. 今後の予定

- ・抗アレル物質準備委員会内で手合わせ試験を実施し、最適な試験方法を確立させる。

以上